

2023 第 20 回 JSCA キーンズランドスイミングチャンピオンシップ遠征報告書

報告：団長 鈴木 晶等
(関東ブロック)

遠征日程：2023年12月7日(木)～17日(日) 10泊11日

昨年度の遠征ではコロナ下の影響が残り飛行機便が減便となるなどイレギュラーな旅程となったが、今回より通常の旅程で遠征を催行することが出来た。

今回は選手12名(本部選抜8名・近畿支部選抜4名・関東支部選抜2名)、と引率9名(団長・副団長・ヘッドコーチ・サブヘッドコーチ・近畿支部支援コーチ・クラブ支援コーチ・ドクター・コーディネーター・シャペロン)による遠征陣となった。主な遠征日程は、12月7日に北は青森、南は鹿児島から各々成田空港へ夕刻に集合し、定刻21時にブリスベンへ向けて出発。8日は早朝ブリスベン到着～午前中市内観光～午後大会会場でのウォーミングアップ。9日から競技が開始し、同日はリレー種目日。10日から15日は個人種目日となり、熱戦が繰り広げられた。16日は終日観光をし、17日早朝にホテルをチェックアウト、定刻10時25分の帰国便に搭乗し、定刻18時30分成田空港へ到着した。到着後、関東地域在住の選手・引率者は帰宅、地方の選手・引率者は成田のホテルに宿泊し、明朝より帰途についた。

引率役員・コーチ

団 長	鈴木 晶等	男	セント・ベル課外水泳教室
副 団 長	福島 孝志	男	石原スポーツクラブ
ヘッドコーチ	大勝 智	男	アクラブ稲城
サブヘッドコーチ	福元 彩乃	女	スウイン大宮西
支援コーチ	吉田 真由美	女	初芝 SS
支援コーチ	元谷 晃之	男	滑川 SC
ドクター	安羅 有紀	女	国立スポーツ科学センター
シャペロン	聡子 フレンド	女	オーストラリア在住
コーディネーター	清水石 寛	男	K・コンシェルジュ

選手団

岩手	岡崎 耀	12才・中1	JSS 盛岡
青森	成田 宗士楼	13才・中1	青森ヤクルト
鹿児島	西蘭 悠	12才・中1	メルヘン鹿屋
富山	池田 英心	13才・中1	滑川 SC
東京	千葉 美涼	12才・小6	アクラブ稲城
埼玉	富澤 香珠	12才・小6	スウイン大宮西
徳島	中野 真凜	12才・中1	ハッピーSS
三重	一尾 彩央依	12才・小6	JSS 白子
東京	西村 光惺	14才・中2	イトマン小平
神奈川	小澤 春來	12才・中1	サギヌマ SC 鷺沼
兵庫	有時 伶音	14才・中2	いちのみや SS
和歌山	中井 大翔	12才・中1	アドヴァンス岩出
大阪	前田 杏	14才・中2	初芝 SS
兵庫	岡本 杏菜	12才・小6	武庫之荘 SS

今回の参加選手の年齢は男子（14歳2名・13歳2名・12歳3名 計7名）女子（14歳1名・12歳6名計7名）と過去の遠征と比較して低年齢層の遠征選手団となった。

12月7日（木）～8日（金）成田集合（結団式）・機内・観光から試合会場前日アップまで

全国各地から14名の選手が無事成田空港に集合。結団式においては、引率者から遠征団としての留意点・ドクターからは体調面の留意点・コーディネーターからは直近の注意点を受け丁子事務局長からは事務連絡等が行われた。



機内食が出るまでの間の腹ごしらえの軽食（パン・飲料）を出発ロビーで摂り、移動し出国手続きとなる。機内では機体が安定したらすぐに機内食が提供されすぐに消灯。早朝、ブリスベン空港に到着。

入国手続き後、専用バスにて観光（コアラサンクチュアリー・マウントクーサ展望台）。マウントクーサ展望台の見晴らしは私自身過去4回のQLD遠征経験の中で一番の見晴らしの良さで、とても天候に恵まれた。



これからの戦いに備え、リラックスすることもチームビルディングすることもとても重要である。



マウントクーサ展望台レストランで入国後、初めての食事。ハンバーガーの大きさにびっくり！飲み物は好きなものをチョイスする方式だったが女子は日本にもあるものをチョイス、男子はオレンジジュース。



腹ごしらえをして、大会会場『ブリスベン アクアティック センター』に移動。東京アクアティックセンターを体験しているので、会場の施設規模にはさほど驚く様子はなく、更衣室・招集所等の確認を行った。しかし、スキージャンプ台の練習施設も併設されているウォーミングアッププールの大きさには皆驚いた様子。



夕食のイタリアンレストランでは食事の量にびっくり。半袖で真夏のクリスマスモードを体感。



ホテルに到着し、大勝ヘッドコーチより諸注意及び明日のリレーメンバー予定の発表。



この2日間は全国各地からの集合～出国の緊張～長時間の飛行機移動～機内就寝～オーストラリア入国審査～観光～慣れないプール環境でのアップ（レーンでの左側通行や《ショッパイ》プールの水）と、刺激的で目まぐるしいスケジュールだった遠征団。ミーティング後にやっとホテルの割り当てられた部屋に入れました。低年齢の選手団としては問題もなく淡々と行程をこなしている様子だった。緊張感たっぷりだった結団式からは少しずつ落ち着きも見られ始めた。

12月9日（土）大会第1日目 初戦はリレー種目

この日はリレー種目だけを行う競技日程なので時間的にも余裕があった。今回は朝食に白飯を特別に用意してもらった。写真にもあるように男子選手は全員白飯を食べていた。食事の面から来るストレスは軽減できたはず。



男女ともにフリー・メドレーリレーで金メダル。女子4×50mフリーリレーにおいては学童新記録！！男子も12歳の選手を交えつつ14歳以下種目での金メダルと結果を残し、幸先の良いスタートが切れました。



夕食は、ステーキ・ガーリックパン・フライドポテト+サワークリームでおなか一杯の食事でした。

ホテルに戻った後は、明日からの個人種目競技についての注意事項・体調面の注意事項等のミーティングをして就寝。



12月10日(日) 大会第2日目 個人戦突入

本日から6日間、個人競技が行われる。観覧席にはインターナショナルチームの専用席が設けてあり、その一部に JAPAN チームの専用エリアが用意されていました。

新車を\$59で購入? 過去3回の遠征引率時に気になっていた件が、専用バスから控え場所エリアまで食料・飲み物やブルーシート等の荷物の運搬に人手が必要だったこと。今までは選手に手伝ってもらっていましたが、今回、新車(荷物運搬用カート)をKmartで購入したことにより荷物運搬を効率よく行うことができるようになりました。ただし、600ml×24本の水のケースは4ケースまで。6ケース載せたら車輪が曲がりました・・・。



夕食前のミーティングと昨日の女子4×50mフリーリレー学童新のメダル授与式です。ほとんどの選手が首からメダルをかけていますが、メダルの裏側に種目・名前・タイムを刻印してもらっていますので1日遅れのメダル授与となります。昨日、年齢により女子12歳以下のリレーに出られなかった前田選手が本日、個人種目で見事金メダル! これで大会2日目にして早くも全員金メダルを獲得した。

本日から夕食は『祭りキッチン』日本人経営のレストランです。今日のメニューは親子丼+うどん+サラダ。



本日は中野選手の13歳の誕生日でした。サプライズとして聡子さんから手作りケーキの差し入れ! 遠征団全員からは寄せ書きバースデーカードのプレゼントを贈りました。聡子さんは連日フルーツ等の差し入れもして頂き、感謝です!



12月11日(月)大会3日目 選手の1日を紹介します

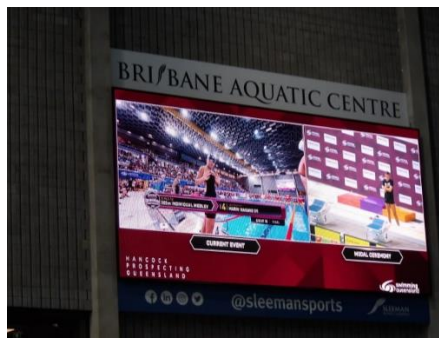
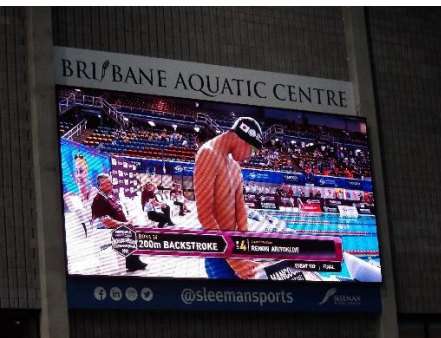
朝食を済ませ、6時30分～40分にはホテルを出発します。大会会場に着き、控え場所の確保のあと、全員で補強運動を行いレースの時間に合わせて各自必要なストレッチ等行います。ブルーシートは2枚(女子用・男子用)に分けて用意。通路のタイルの上にブルーシートを広げて場所を取るのはJAPANチームだけです。(笑)国内の大会会場ではよく見る光景ですが・・・。



下の3枚の写真は選手目線のスタート前・スタート側からの水面・ターン側からの水面を感じていただければと思います。海外選手に囲まれても不動心を保てるかが勝負の鍵です。



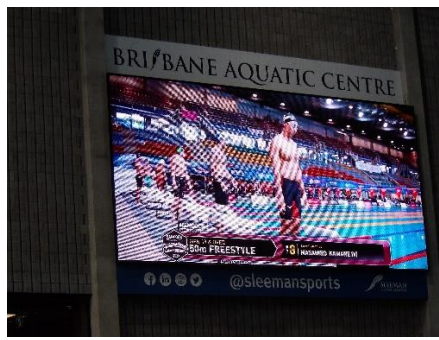
電光掲示板とビジョンは併用です。真ん中の写真は選手紹介と表彰が同時にビジョンに映し出されています。



左の写真は池田選手と元谷コーチが富山の新聞に載った写真です。ビジター枠の決勝進出は2名なので、出場種目が被るとチーム内でも激しい戦いとなります。表彰台はクイーンズランド選手権獲得者の1位～3位とビジター枠の2名となります。



12月12日(火) 大会4日目 大先輩の刺激を受けた1日



BRI/BANE AQUATIC CENTRE

EV:110 Men's 1980 50m Freestyle

LANE	SWIMMER	CLUB	TIME	RANK
4	RCEVOY, CAMERON	SORAQ	21.62	1
5	NOWAKOWSKI, THOMAS	USCS	22.55	2
6	COOPER, ISAAC	STAND	22.18	3
3	SHIURA (Y), SHINRY	JPN	22.43	4
1	ARMERUSTER, BEN	STPET	22.52	5
2	JACK, JAMIE	BOND	22.57	6
7	BELL, GRAYSON	TSST	22.78	7
9	GORKHAN, JEZZE	STAND	22.86	8
8	SCHOERAN (V), ROLAND	RSA	22.94	9
8	KANAME (Y), MASAHIRO	JPN	22.94	9

大会4日目です。そろそろ疲れや慣れが出て中弛みとなることを心配していましたが、その心配もなんのその、千葉選手が自身3度目の学童記録更新！！秋から冬（オーストラリアは夏ですが）にかけて絶好調。ブロック対抗（千葉）・東京 SC 招待・QLD 選手権で立て続けの学童新（女子12歳50m）！！

BRI/BANE AQUATIC CENTRE

EV:111 Girls 12yrs 50m Freestyle

LANE	SWIMMER	CLUB	TIME	RANK
5	CHIBA (Y), WISUZU	JPN	26.25	1
4	TOMISAWA (V), KAJYU	JPN	26.64	2
2	ALBERTYN, ROXANNE	MIAMI	27.51	3
3	MELBOURN, JOCELYNE	STPET	27.86	4
6	HARRIS, MYA	MIAMI	27.94	5
1	HOLDER, AMELIA	SCGS	28.18	6
7	CAMENZULI, AWA	MIAMI	28.17	7
9	BEIRNE, CHARLOTTE	WCOLL	28.53	8
8	ILLIN, TINSLEY	TSVAJ	28.64	9
6	BAILEY, SUMNER	STHPT	28.82	10



今回の大会には日本代表のトップアスリートも個人で参加しています。そのご縁もあり、大会会場では近づくことができなかつた有名選手が同じレストランに来てくれました。日本代表の塩浦選手と川根選手です。特に川根選手は小澤選手と同じスイミング出身で、南半球で会うことになるのは不思議な気がします。二人の偉大な先輩選手の言葉と応援が、選手たちの疲れと中弛みを吹き飛ばしてくれました。



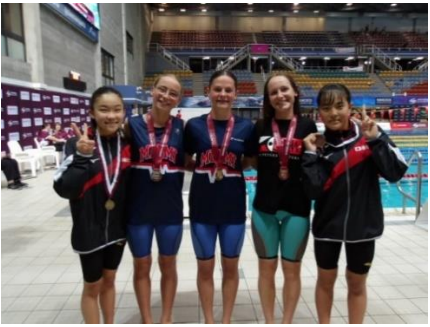
12月13日(水) 大会5日目 交流

この日の予選競技中に団長・副団長は便宜を図っていただいているクィーンズランド水連に挨拶に伺いました。写真の右に居るクィーンズランド水連ヘッドコーチは3月のジュニアオリンピックに選手団を編成して日本に来ます。選手・コーチはJOでお会いしたら挨拶をしましょう。ちなみに犬の名前は『ラッキー』です。

この頃になると選手達にも少しずつ自信と余裕が出てきたように感じます。



選手たちは現地選手とも交流が盛んになってきました。



大会6日目・12月14日(木) 学童新3種目達成

食欲維持のため、《ふりかけ》の登場！！\$3.30。今回は日本食をとれる環境が充実していたため、食べられないものがないという選手が出ずに済んだ(一部コーチを除く)。長い遠征では食は大事で、食べれないと体力面だけでなく精神面にも負担が掛かり、パフォーマンスに大きく影響する。



富澤選手が女子12歳50m バタフライで本遠征団3つ目となる学童新達成！若き福元コーチと共に成し遂げました。



この大会と一緒に参加していた、日本パラ水泳連盟の選手・引率の方たちと記念撮影。



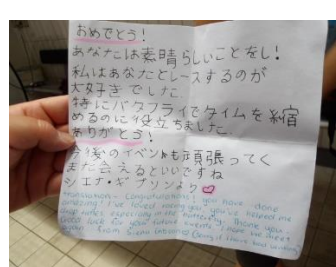
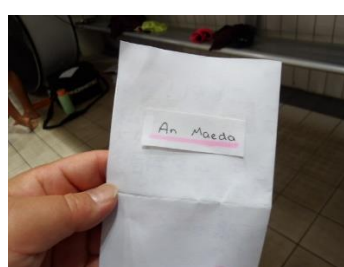
12月15日(金)大会7日目 大会最終日!全員が爆発しましたぁ〜

男子選手のおちゃめな社会科見学の1枚です。この頃になると選手同士は打ち解けてチームがまとまってきます。応援にも力が入ります。慣れない種目にチャレンジし失格する場面もありましたが、それもまた経験。

大会最終日の競技役員は全員クリスマスバージョン。こうした遊び心は海外ならではの。



招集所でもこの余裕! キーンズランドの選手から日本語の手紙までもらいました。



全競技が終了して、ギャルピース!!



夕食前のミーティングはメダル授与式となりました。学童新記録樹立者には写真入りの額を贈呈しました。



今回の遠征最後のサプライズ！日本代表の佐藤翔馬選手と夕食会。選手にとっても貴重な時間となりました。メニューは金曜日なのでフライデー??



今回の遠征で大変お世話になった、シャペロンの聡子さん、ドライバーの石坂さん、海外とは思えない夕食を作っていただいた祭りキッチン森さんご家族に「ありがとうございました」



12月16日(土) 観光 サーファーズパラダイス・シーワールド・サーファーズパラダイスでお土産購入

待ちに待った頑張ったご褒美の海水浴。サウスポートの最高なビーチと世界一のライフガードがいる海外屈指のビーチスポット。ただ、安羅ドクター監視員のほうが監視は厳しかったです。ちなみに安羅ドクターの靴はびしょ濡れになり、次の日の帰日も自宅に帰るまでビーチサンダルでした。



男子はここでもスタートをするんかい！あれだけ泳いでも体力あるのはある意味頼もしいけど・・・。
海水はショッパイ&思ったより冷たいからとりあえず砂に埋まる。



サウスポートビーチでの集合写真



シーワールドとサーファーズパラダイスの集合写真

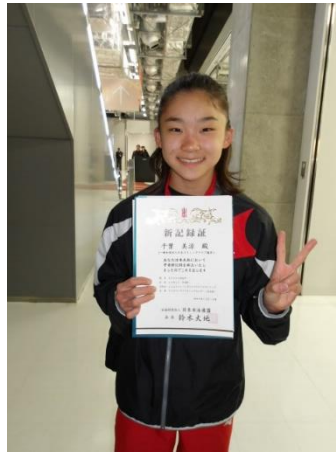


12月16日(日) さあ帰ります

お世話になったドライバーの石坂さんとはブリスベン空港でお別れです。ありがとうございました。帰りは昼間の8時間フライトなのですが選手はよく寝ていました。



到着後、丁子事務局長から日本水泳連盟の学童新記録証が手渡されました。



解散式。選手・コーチの皆さんお疲れさまでした。チームを引っ張ってくれたキャプテン・男子キャプテン・女子キャプテンありがとう！



振り返り・総括

競技面では、なんとといっても日本学童記録が3種目出せた事が最大の成果と言えるでしょう。他の選手も日本では出場したこともない種目に果敢に挑戦するなどして、個人・リレー種目合計メダル数70個（金47個・銀19個・銅4個）を数えました。

チーム面では、報告書の初めにも書きましたが、選手団の平均年齢が低く、遠征当初は心配もしていましたが、問題なくスケジュールをこなせました。平均年齢は低いですが、12歳から14歳までと年齢差が少なかったためか、チームワーク的にはよくまとまりのあるチームになったと思います。引率陣も男女比的にバランスよく、年齢層も20代が2名いるなどうまく配置されていたと思います。若いコーチがいると選手と年齢的に近いので、互いに率直な意見も言いやすい環境になりますし、何より、こうした遠征はコーチにとっても貴重な経験であるため、その経験を長く活かし続けられる若いコーチの参加は意義深いと考えます。

生活面で苦慮した部分は、選手の水分補給の少なさが挙げられます。水分補給が少ないと熱中症になるということを選手が自覚していないので、遠征前半では水を持ったか！持っているか！と口頭での指示だけでしたが、後半はペットボトルを2本持っているか！！と具体的に確認をするようにしました。それでも持たずに大会会場に入る選手もいたので全体装備の補食・オレンジジュース等とともに水1ケースを持って会場入りをしたほどです。それでも軽度の熱中症症状を訴える選手が出てしまい、ドクターの適切な処置により1日で回復しました。次回以降も水分補給の確認作業は必須と思われます。

運営面で言うと引率陣は、選手を見るコーチ業務、記録やブログアップなどのサポート業務、運搬・買い出しなどの裏方業務に分かれ、それぞれが機能していたように感じます。また、業務ではないのですが、シャペロンのきめ細やかなフォローや、コーディネーターの頼れるサポートなどもあり、選手は競技に集中することが出来たと思います。反省点としては、関係が構築されていない急造のチームでは難しいのですが、もう少し挨拶や感謝の言葉をしっかり表現出来るよう社会生活面を指導出来れば良かったかなと思います。

さて、ここでお礼を申し上げたいと思います。今大会に出場したオリンピックや日本を代表する選手と一緒に夕食をとることが出来ました。貴重なお話や激励をして頂いたり、なおかつサインまでもらい、選手たちにとっては貴重な時間で、大きな刺激を受けたと思います。団を代表してお礼を申し上げます。

また、日本を代表するパラ選手も大会に参加し、マルチクラスレースで活躍していました。同じ日本人アスリートとして共に戦い、共に応援ができたことをうれしく思います。

遠征では、江崎グリコ株式会社様、ミズノ株式会社様、株式会社サンワ様、株式会社ヒカリスports様から遠征に必要な提供品・協賛品を頂き感謝いたします。また、正式なサプライヤーではないのですが、選手にJAPANグッズを提供していただいた株式会社デザート様、ありがとうございました。

最後にお見舞いを申し上げます。我々が日本に到着した次の日に、ストームに見舞われてケアンズ空港は閉鎖し、町中が冠水したと聞いています。以降クリスマスまで、QLD 北部はストームに見舞われ続け、降雨量が1,000mlにも達し、家の屋根が飛ばされたり、木が根こそぎ倒れたり大きな被害が出たようです。心よりお見舞い申し上げます。

終わりに、(一社)日本スイミングクラブ協会のQLD遠征は日本水泳界のジュニア層の強化に向け、十分な助力が出来ていると思います。過去にもこの遠征を経験し日本代表になった選手は何名もおります。今回で20回目となりますが、さらなる回を重ね、ジュニア層の海外レース出場体験による一層の競技力強化に繋がれば幸いです。

以上